

小金井市の公立保育園における保育の質 ～全世帯アンケート調査に基づく考察～

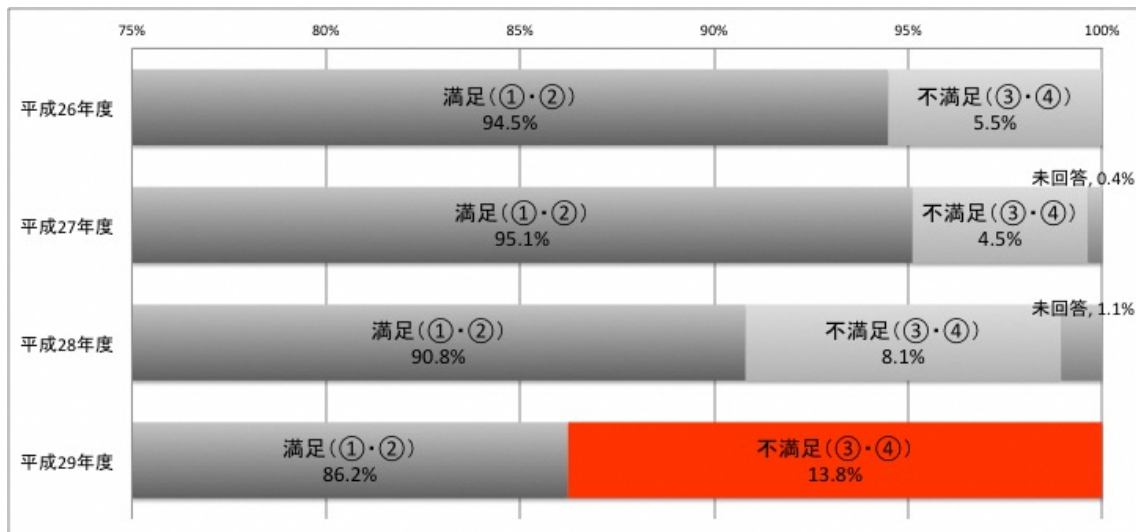
毎年、公立保育園を利用する全世帯を対象に実施している「公立保育園の運営に関するアンケート調査」の結果を概説する。本アンケートでは、①全体評価、②保育ニーズを継続的に調査しており、平成 26～29 年度の結果の推移から全体の傾向を分析する。

1 全体評価

(1) 全体評価の推移

小金井市の公立保育園に対する利用者の満足度は非常に高く、平成 26～28 年度は 9 割以上が満足傾向を示していた。しかし、平成 29 年度の調査では満足群（満足している、おおむね満足している）が初めて 90%を下回り、不満足群（あまり満足していない、不満である）が初めて 10%を突破した。

図表 1 現在の公立保育園に対する満足度

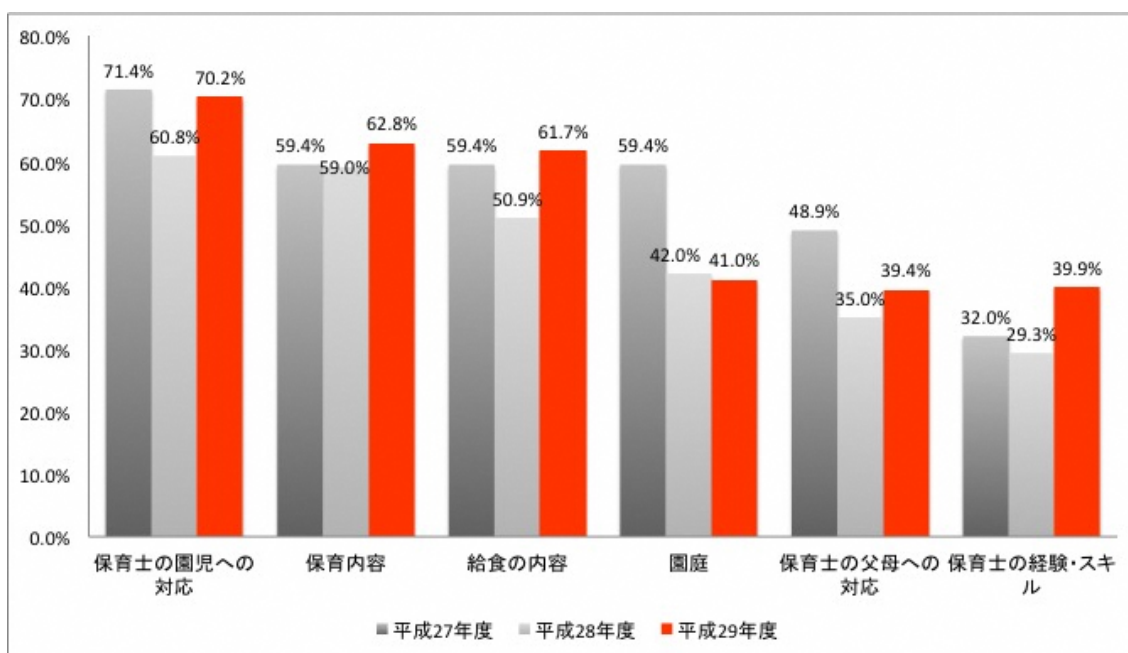


(2) 全体評価の理由

全体評価の理由として挙げられたトップ3の顔ぶれはこの3年（平成27～29年度）で変わっておらず、1位が「保育士の園児への対応」、2位が「保育内容」、3位が「給食の内容」となっている。その後に「園庭」または「保育士の父母への対応」が続くのが例年の傾向である。

しかし、平成29年度の調査で、満足度と不満足群に分けて理由を抽出したところ、満足群の理由の5位に「保育士の経験・スキル」が初めて入った。

図表2 全体評価の理由（※平成29年度は満足群における比率）



参考 小金井市の公立保育園における保育士の年齢分布

●平成15年4月（児童福祉審議会資料より 保育士のデータ）

職員数：89名／年齢合計：45,479月／平均年齢：42歳7月

18～23歳	24～31歳	32～35歳	36～39歳	40～47歳	48～51歳	52～55歳	56～59歳
12名	6名	7名	9名	9名	17名	14名	12名

●平成29年3月（運営協議会資料169より 職種A保育士のデータ）

職員数（回答数）：63名

18～25歳	26～35歳	36～45歳	46～55歳	56歳～
2名	23名	20名	15名	3名

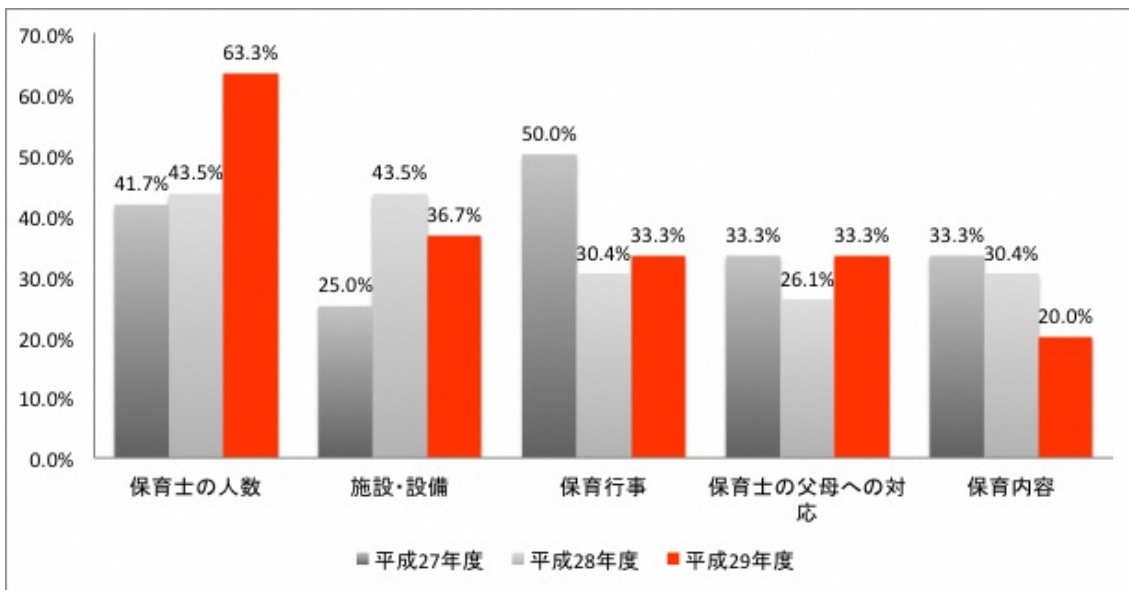
- 小金井市の保育士平均勤続年数（平成 27 年 4 月 1 日現在、検討協議会資料 14 より）
 公立保育所：約 12 年 6 ヶ月
 民間保育所：約 7 年 9 ヶ月（前歴を含む）、約 5 年 1 ヶ月（現施設のみ）

（3）不満足の原因

全体評価における不満足群（あまり満足していない、不満である）が理由とする項目は、年度によって変動が見られるが「保育士の人数」「施設・設備」「保育行事」「保育士の父母への対応」「保育内容」が挙げられることが多い。なかでも、「保育士の人数」を不満足の原因に挙げる人は増加傾向にあり、不満足群が 13.8%に達した平成 29 年度調査では、その 63.3%が「保育士の人数」を不満の原因として選択した。

図表 3 不満足の原因

※不満足群における比率

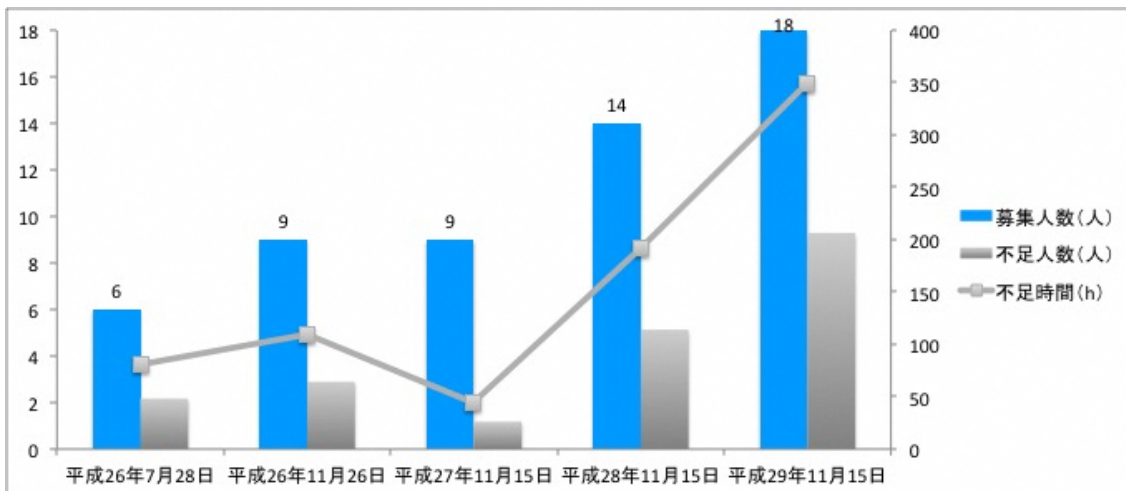


参考 職員の不足状況

- 職員の募集状況（平成 29 年 11 月 15 日現在、運営協議会資料より）
 臨時職員：18 名募集中（348.5 時間＝フル換算で約 9 名の不足）
 非常勤職員（朝・タパート）：6 名募集中（1 名あたり 12.5 時間の不足）
 育休代替任期付き職員：4 名募集中（1 名あたり 38.75 時間の不足）

●臨時職員の募集状況の推移

運営協議会での報告が始まった平成26年7月時点と比較すると、およそ3年の間に臨時職員の不足は約4倍になり、募集人数も3倍に増加した。



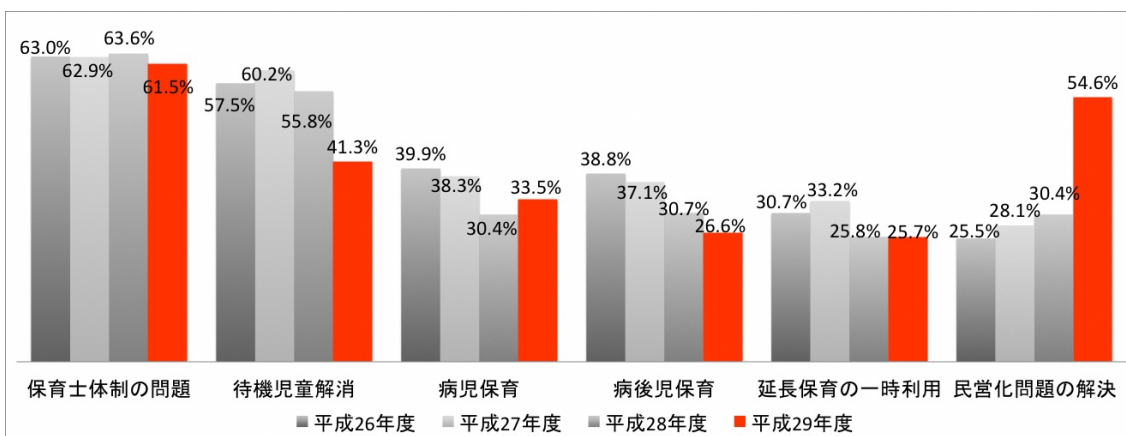
2 保育ニーズ

(1) 全体の傾向

小金井市の公立保育園利用者に、保育や保育園関係等で市に要望したい内容（5つ以内）を尋ねたところ、例年のトップ5は「保育士体制の問題」「待機児童解消」「病児保育」「病後児保育」「延長保育の一時利用」であった。

しかし、「民営化問題の解決（平成28年度までは『民間等への委託問題の解決』）」は平成26年度の7位から徐々に順位を上げ、平成29年度の結果ではついに2位となった。

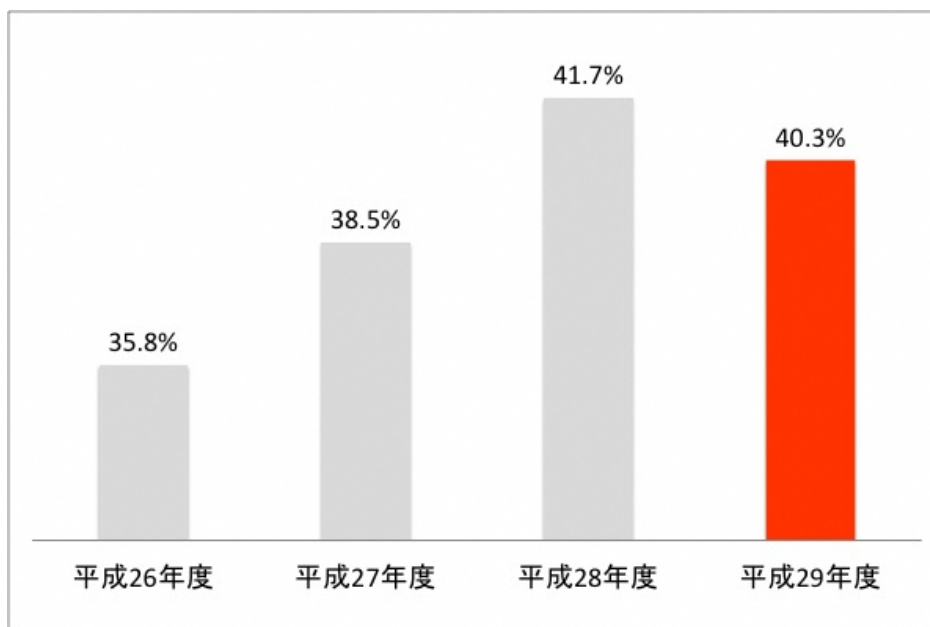
図表4 保育ニーズの推移



(2) 保育士体制の問題の切迫度

各ニーズの切迫度は、その項目を 1 位にした人の比率である程度推測可能である。まず、保育士体制の問題ニーズが全体の回答数に占める比率を見ると、平成 26 年度の 63.0%から平成 29 年度の 61.5%へとわずかながら低下。しかし、保育士体制の問題を選択した人の中で 1 位にした人の割合を見ると、平成 26 年度が 35.8%だったのに対し、平成 29 年度は 40.3%となり、切迫度としては上昇している可能性が読み取れる。アンケートを提出した利用者のおよそ 4 人に 1 人が「保育士体制の問題」の解決を一番に望んでいるという結果となった。

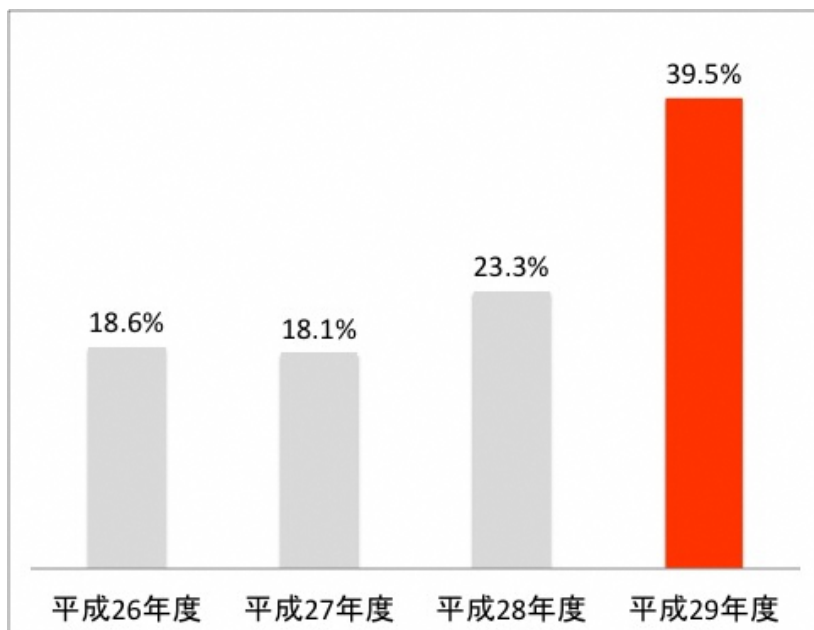
図表 5 保育士体制の問題を選んだ人の中で 1 位にした人の比率



(3) 民営化問題の切迫度

前項と同様に、「民営化問題の解決（平成 28 年度までは『民間等への委託問題の解決』）」を選択した人の中で 1 位にした人の割合を見ると、平成 26 年度の 18.6%に対し、平成 29 年度は 39.5%に急増していることがわかる。アンケートを提出した利用者のおよそ 5 人に 1 人が「民営化問題の解決」を一番に望んでいるという結果になった。

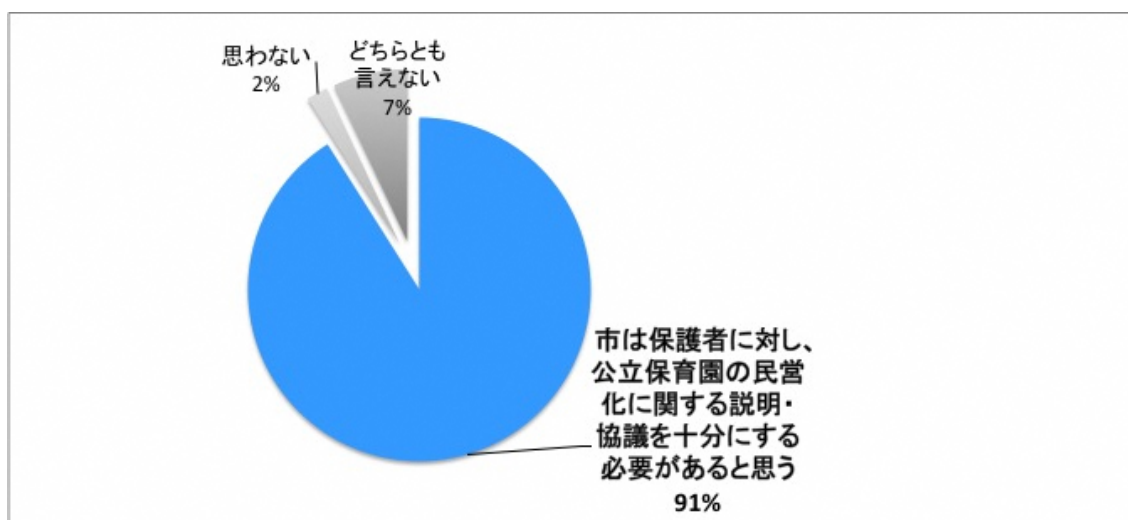
図表 6 民営化問題の解決を選んだ人の中で 1 位にした人の比率



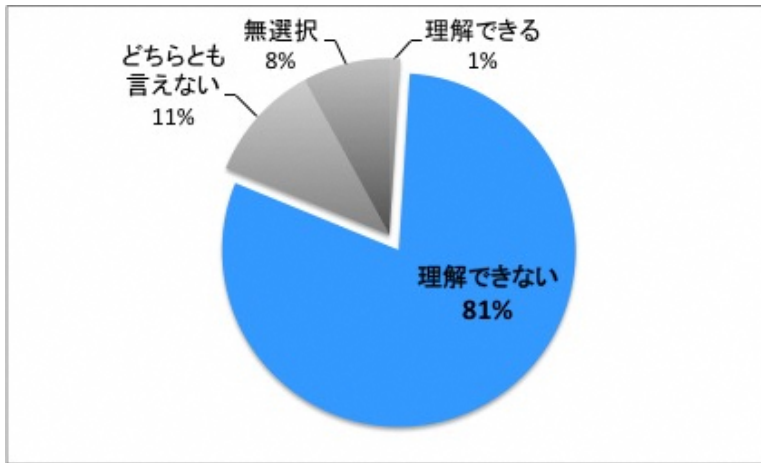
参考：民営化問題に対する利用者の意向（平成 29 年 7 月、五園連緊急アンケートより）
 回答者の 9 割が、市は保護者に対して十分な説明・協議（民営化以外の選択肢を含めた検討や十分な審議時間を確保するなど）を行う必要があると回答。市の取り組みに対しては 8 割が「理解できない」とし、方針決定後に対象園のみで説明するのではなく、方針の決定前から運営協議会など開かれた場で協議を行うことを選択した。

また、小金井市の公立保育園の民営化に対する思いを尋ねたところ、8 割が反対の意向を示した。

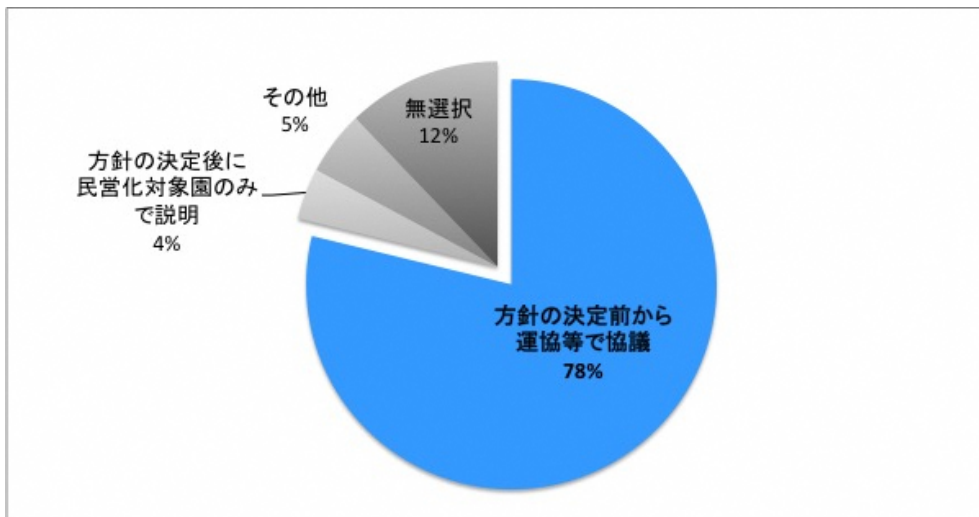
●保護者に対する説明・協議の必要性（民営化以外の選択肢を含めた検討、十分な審議時間を確保する等）



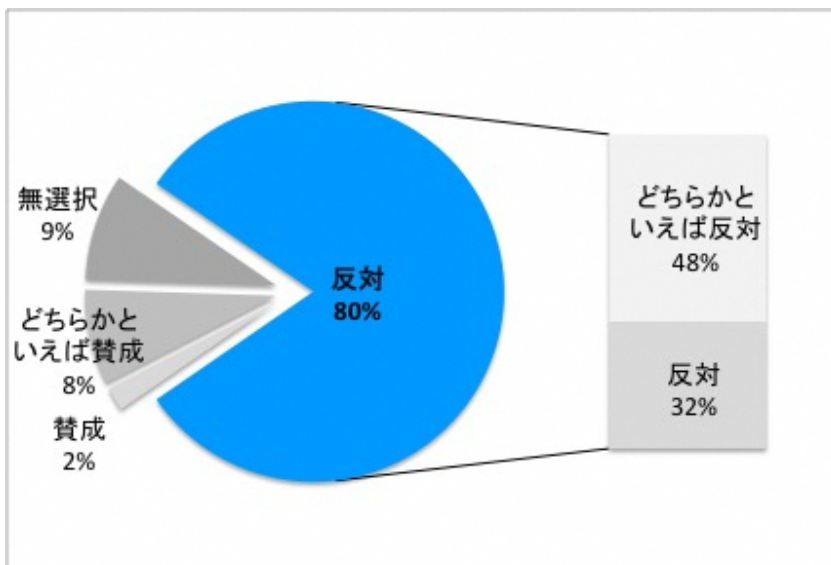
●市の取り組みに対して



●保護者への説明・協議方法



●民営化に対して



3 小金井市の公立保育園の保育士体制について

(1) 保育士体制全般について

保育士体制について感じていることを、平成 28～29 年の 2 年連続で尋ねたところ、未記入者の比率にばらつきが生じたため、有効回答者における各項目の比率を比較した（図表 8、9）。

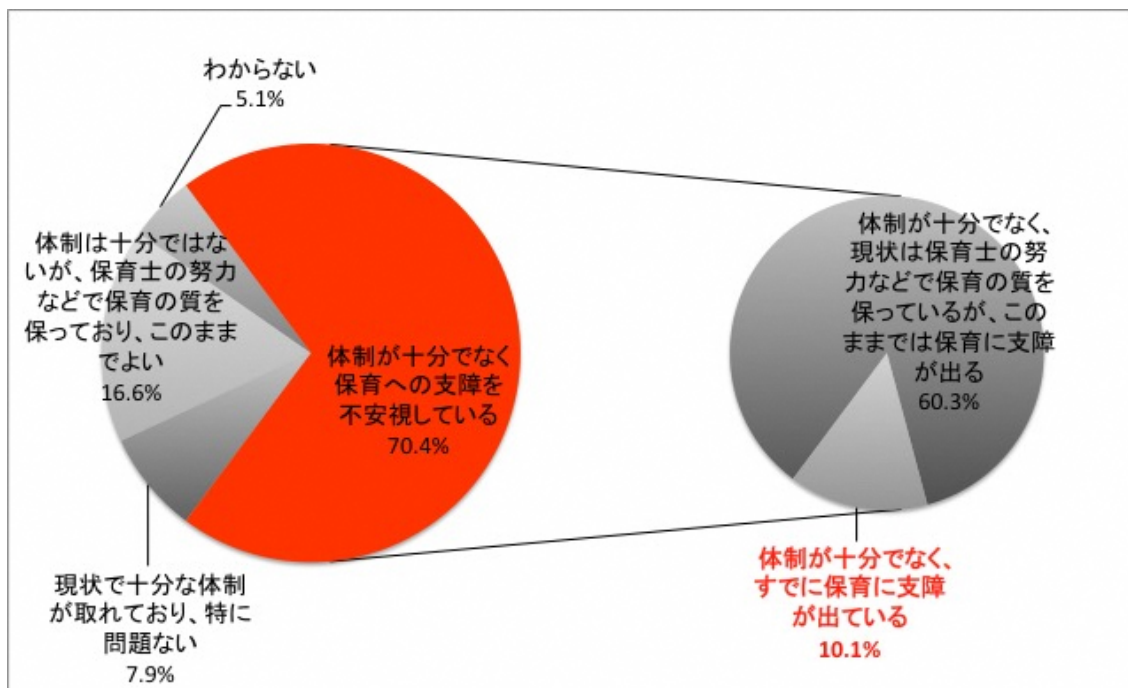
すると、③④を合わせた「体制が十分でなく保育への支障を不安視している」層の比率は両年とも約 70%に達しており、中でも④の「すでに保育に支障が出ている」は 1 年で約 4%増加していることがわかった。

一方、①の「現状で十分な体制が取れており、特に問題はない」および②の「体制は十分ではないが、このままでよい」を選択した人は、1 年で約 1%ずつ減少。これらの状況から、保育士体制問題はより深刻になっていると推測できる。

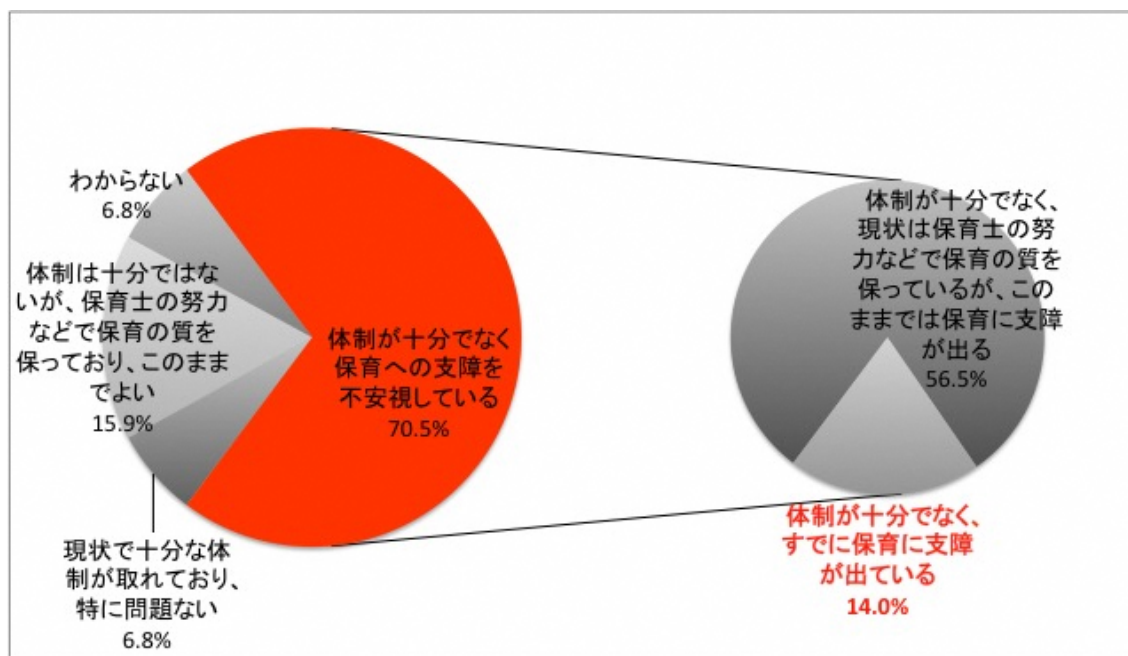
図表 7 保育士体制について感じていること（全回答）

	平成 28 年度	平成 29 年度
①現状で十分な体制が取れており、特に問題はない	22 名 (7.8%)	14 名 (6.5%)
②体制は十分ではないが、保育士の努力などで保育の質を保っており、このままでよい	46 名 (16.3%)	33 名 (15.2%)
③体制が十分でなく、現状は保育士の努力などで保育の質を保っているが、このままでは保育に支障が出る	167 名 (59.0%)	117 名 (53.9%)
④体制が十分でなく、すでに保育に支障が出ている	28 名 (9.9%)	29 名 (13.4%)
⑤わからない	14 名 (4.9%)	14 名 (6.5%)
未記入	6 名 (2.1%)	10 名 (4.6%)
合計	283 名	217 名

図表 8 保育士体制について感じていること（平成 28 年度、有効回答者における比率）

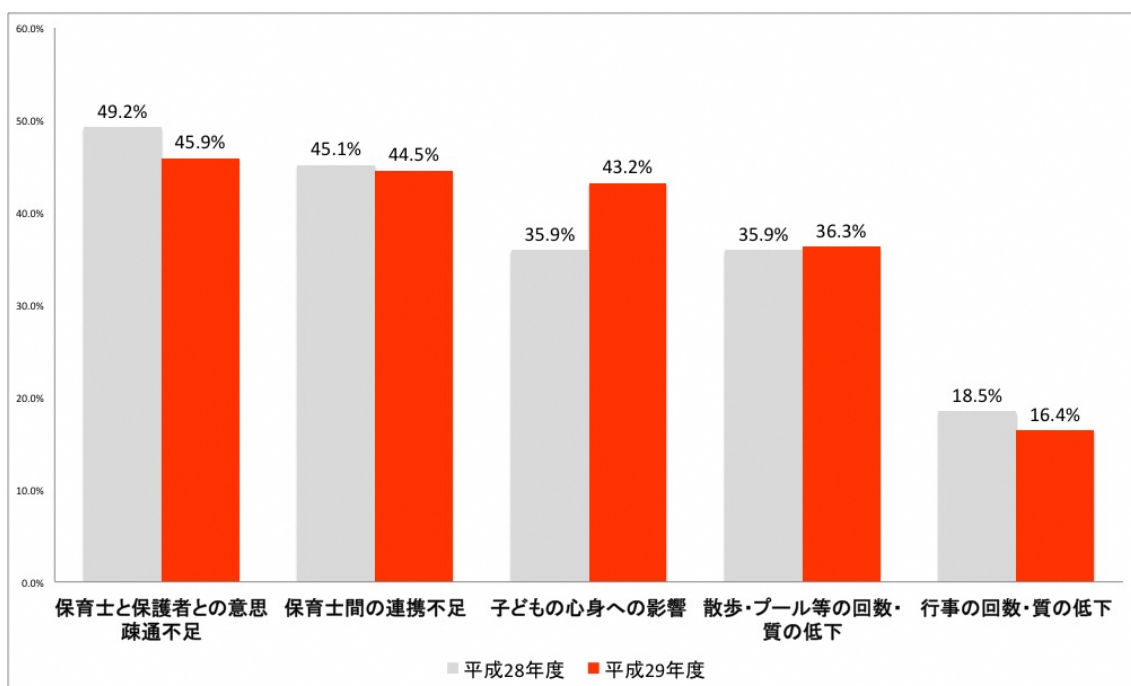


図表 9 保育士体制について感じていること（平成 29 年度、有効回答者における比率）



(2) 前問で「③体制が十分でなく、現状は保育士の努力などで保育の質を保っているが、このままでは保育に支障が出る」または「④体制が十分でなく、既に保育に支障が出ている」を選択した人に、既に出ている、または今後出ると思われる保育への支障について最も重要だと思う内容を3つまで選んでもらった。平成28・29年度ともに、トップ3は「保育士と保護者との意思疎通不足」「保育士間の連携不足」「子どもの心身への影響」となった。なかでも、「子どもの心身への影響」は1年で7.3%増となり、43.2%の人が挙げた。実際の影響の有無を含め、さらなる調査が求められる。

図表 10



4 小金井市の保育の特長と課題

(1) 現在通っている保育園に日ごろ感じていること

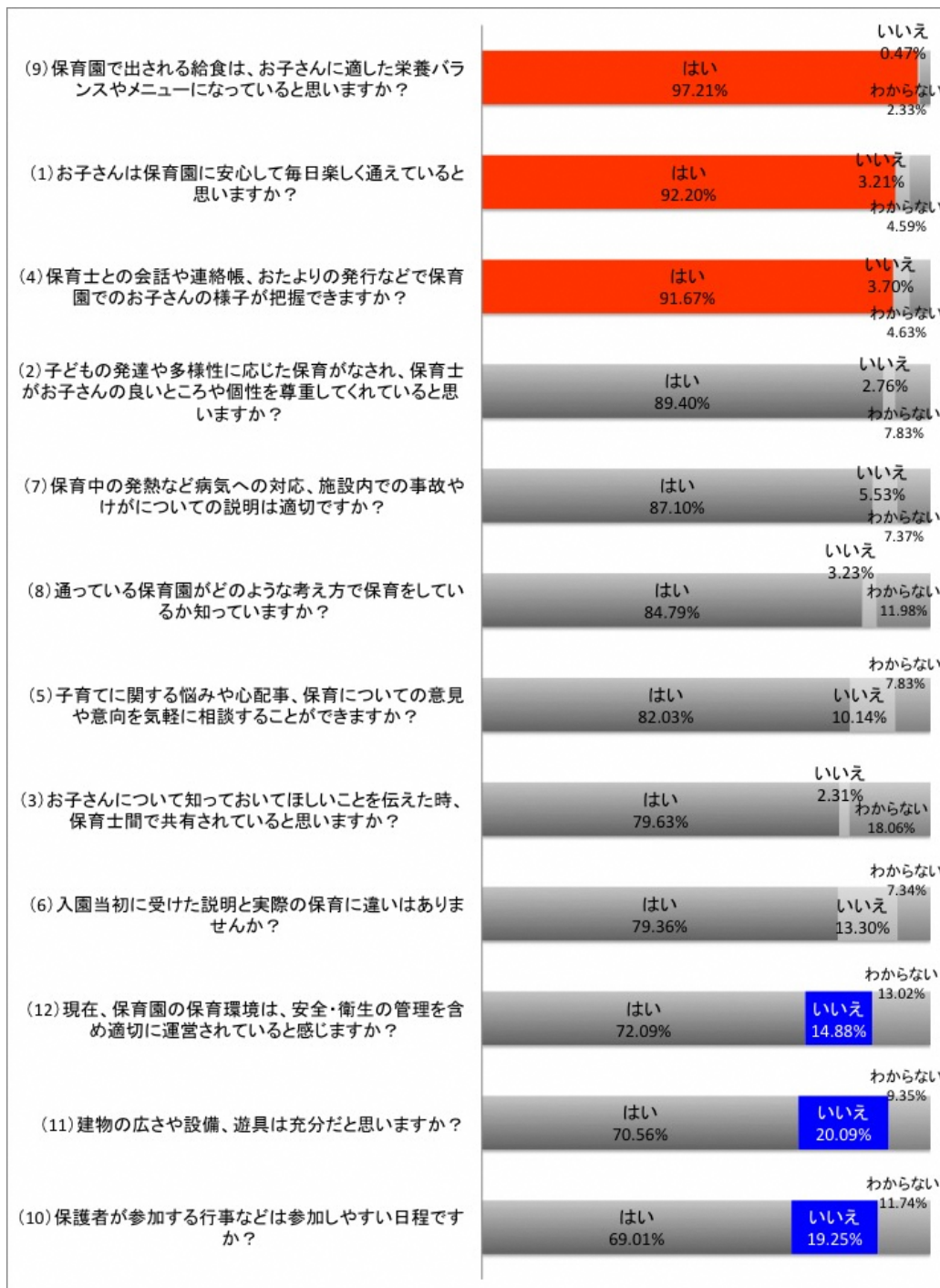
①小金井市の公立保育園の傾向

現在通っている保育園について肯定的に感じている割合が高かったのは、「保育園で出される給食は、お子さんに適した栄養バランスやメニューになっていると思いますか？ (97.2%)」「お子さんは保育園に安心して毎日楽しく通えていると思いますか？ (92.2%)」「保育士との会話や連絡帳、おたよりの発行などで保育園でのお子さんの様子が把握できますか？ (91.7%)」「子どもの発達や多様性に応じた保育がなされ、保育士がお子さんの良いところや個性を尊重し

てくれていると思いますか？（89.4%）」などであった。

逆に、相対的に満足度が低く否定の割合が高かったのは「保護者が参加する行事などは参加しやすい日程ですか？（19.3%）」「建物の広さや設備、遊具は充分だと思えますか？（20.1%）」「現在、保育園の保育環境は、安全・衛生の管理を含め適切に運営されていると感じますか？（14.9%）」などであった。

図表 11 保育園に対し日ごろ感じていること（整理済）



②他自治体との比較

東京都世田谷区は、かねてより「保育の“量”を広げていくために保育の“質”が損なわれることがあってはいけない」という考えを表明しており、平成27年には「世田谷区保育の質ガイドライン」をまとめている。同区が平成25年末に実施した「保育サービス利用者アンケート調査」と同様の項目について、今回の結果と比較した（図表12）。

<肯定の割合が高かった項目>

「お子さんは保育園に安心して毎日楽しく通えていると思いますか?」「保育園で出される給食は、お子さんに適した栄養バランスやメニューになっていると思いますか?」の2項目は小金井市、世田谷区とも共通してトップ2に入っている。しかし、世田谷区で3位に入った「保育中の発熱など病気への対応、施設内での事故やけがについての説明は適切ですか?」については、小金井市では否定の割合が世田谷区の2倍と高く、病気や事故、けがの対応になんらかの課題があることが伺える。

一方、小金井市の3位となった「保育士との会話や連絡帳、おたよりの発行などで保育園でのお子さんの様子が把握できますか?」は、世田谷区と肯定の割合はほぼ同等であるが、否定の割合が世田谷区よりも少ない。また、小金井市では「子どもの発達や多様性に応じた保育がなされ、保育士がお子さんの良いところや個性を尊重してくれていると思いますか?」が続く4位に入ったことから、保育士の対応の細やかさが小金井市の公立保育園の特長のひとつであると推測できる。

<否定の割合が高かった項目>

「建物の広さや設備、遊具は充分だと思いますか?」「保護者が参加する行事などは参加しやすい日程ですか?」は、小金井市、世田谷区ともに満足度が低い。

「入園当初に受けた説明と実際の保育に違いはありませんか?」は、小金井市では「いいえ」が約13%、「わからない」も約7.3%と高いことから、満足度が約79.4%と低くなっている。しかし、世田谷区では約10%の人が「いいえ」を選択しているが、「わからない（無回答含む）」が0.9%と低いため、満足度は小金井市よりも約10%高い89.6%となっている。このことから、入園時の説明や以降の保育とのギャップに潜在的な課題があることが伺える。

そのほか、「子育てに関する悩みや心配事、保育についての意見や意向を気軽に相談することができますか？」についても、小金井市での否定の割合が比較的高いことから、なんらかの課題の存在が推測できる。

設問	小金井市			世田谷区		
	はい	いいえ	わからない	はい	いいえ	わからない・無回答
(1) お子さんは保育園に安心して毎日楽しく通えていると思いますか？	92.20%	3.21%	4.59%	97.2%	2.1%	0.7%
(2) 子どもの発達や多様性に応じた保育がなされ、保育士がお子さんの良いところや個性を尊重してくれていると思いますか？	89.40%	2.76%	7.83%	89.5%	2.9%	7.6%
(4) 保育士との会話や連絡帳、おたよりの発行などで保育園でのお子さんの様子が把握できますか？	91.67%	3.70%	4.63%	92.0%	7.7%	0.3%
(5) 子育てに関する悩みや心配事、保育についての意見や意向を気軽に相談することができますか？	82.03%	10.14%	7.83%	87.1%	6.5%	6.4%
(6) 入園当初に受けた説明と実際の保育に違いはありますか？	79.36%	13.30%	7.34%	89.6%	9.5%	0.9%
(7) 保育中の発熱など病気への対応、施設内での事故やけがについての説明は適切ですか？	87.10%	5.53%	7.37%	92.9%	2.2%	4.9%
(8) 通っている保育園がどのような考え方で保育をしているか知っていますか？	84.79%	3.23%	11.98%	89.4%	9.9%	0.6%
(9) 保育園で出される給食は、お子さんに適した栄養バランスやメニューになっていると思いますか？	97.21%	0.47%	2.33%	93.3%	1.5%	5.3%
(10) 保護者が参加する行事などは参加しやすい日程ですか？	69.01%	19.25%	11.74%	77.4%	15.3%	7.4%
(11) 建物の広さや設備、遊具は充分だと思えますか？	70.56%	20.09%	9.35%	63.8%	30.9%	5.3%

図表 12 世田谷区との比較

※世田谷区は保育サービスの全利用者が対象

(2) この保育園に通っていて良いと感じること

① 小金井市の公立保育園の傾向

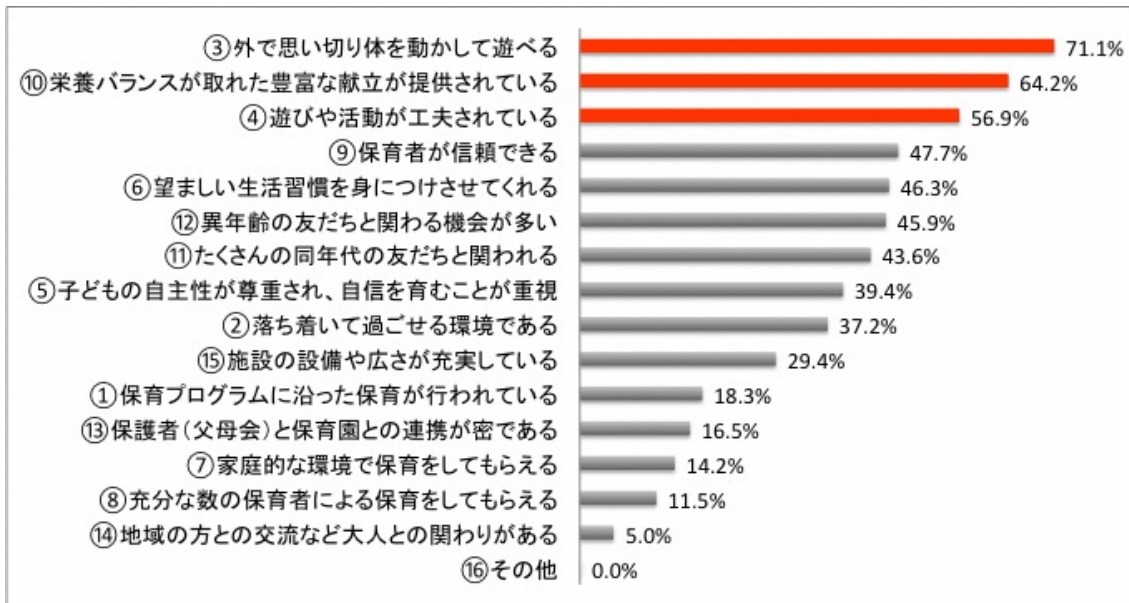
現在通っている保育園の良いところとして多く挙げられたのは、「外で思い切り体を動かして遊べる」「栄養バランスが取れた豊富な献立が提供されている」「遊びや活動が工夫されている」「保育者が信頼できる」「望ましい生活習慣を身につけさせてくれる」「異年齢の友だちと関わる機会が多い」などであった。

これらの結果から、給食や保育内容のほか、自園の園庭と近隣の公園を組み合わせた活動、4園で実施している異年齢保育などへの評価の高さも伺える。

一方、「地域の方との交流など大人との関わりがある」「十分な数の保育者によ

る保育をしてもらえる」「家庭的な環境で保育をしてもらえる」などに対する評価の割合が低かった。このうち、「十分な数の保育者による保育をしてもらえる」については、欠員を含む保育士体制の問題が影響しているものと考えられる。

図表 13 この保育園に通っていて良いと感じること



参考：園庭のある認可園の減少

1	東京都文京区	18.3%
2	東京都港区	24.1%
3	東京都中央区	27.9%
4	東京都千代田区	30.8%
5	東京都台東区	37.9%
6	東京都新宿区	43.2%
7	東京都小金井市	45.0%
8	東京都江東区	46.2%
9	東京都大田区	47.0%
10	大阪府大阪市	51.6%

園庭保有率ワースト10 (2017年4月)

(出典：東京新聞 2017年10月14日朝刊)

「保育園を考える親の会」が園庭のある認可保育所の割合(園庭保有率)を調査したところ、小金井市は97市区中91位となり、多摩26市で唯一ワースト10に入った。

都内でも多摩地区の国立、稲城、青梅、東村山市は100%だった。法的に認可保育所は近くに公園があれば園庭はなくてもよいとされているが、市内でも1カ所の公園にいくつもの保育施設が子どもを連れてくる「バッティング」が頻発しており、散歩先に困っているという話も聞かれる。今後、子どもが体を動かして心身を発達させる環境を自治体がどのように保障していくかが問われている。

②他自治体との比較

世田谷区が平成 25 年末に実施した「保育サービス利用者アンケート調査」の結果と比較すると、小金井市においては友だちとの関わりの機会よりも保育内容や保育士への評価のほうが高いことから、保育内容や保育環境に対する保護者の関心がより高いことが推測できる（図表 14）。

なかでも、「外で思い切り体を動かして遊べる」については、世田谷区よりも約 5%高い割合で評価が出ている。

そのほか、公立 5 園をつなぐネットワーク（五園連）があり、公立保育園運営協議会や対市懇談会などを通じて、保護者（父母会）が保育や保育運営に関わる機会が多い点も小金井市の公立保育園の特長のひとつであることが伺える。

	小金井市	世田谷区
①保育プログラムに沿った保育が行われている	18.3%	28.2%
②落ち着いて過ごせる環境である	37.2%	43.3%
③外で思い切り体を動かして遊べる	71.1%	66.2%
⑤子どもの自主性が尊重され、自信を育むことが重視されている	39.4%	46.2%
⑥望ましい生活習慣を身につけさせてくれる	46.3%	59.4%
⑦家庭的な環境で保育をしてもらえる	14.2%	26.6%
⑧十分な数の保育者による保育をしてもらえる	11.5%	45.2%
⑨保育者が信頼できる	47.7%	68.0%
⑩栄養バランスが取れた豊富な献立が提供されている	64.2%	80.7%
⑪たくさんの同年代の友だちと関われる	43.6%	72.6%
⑫異年齢の友だちと関わる機会が多い	45.9%	71.7%
⑬保護者（父母会）と保育園との連携が密である	16.5%	12.5%
⑭地域の方との交流など大人との関わりがある	5.0%	14.2%
⑮施設の設備や広さが充実している	29.4%	29.2%
⑯その他	0.0%	5.8%
無回答	—	0.1%

図表 14 世田谷区との比較

※世田谷区は保育サービスの全利用者が対象

5 結論

今年度のアンケートの全体評価においては、例年に比べ不満足群の割合が上昇した。しかし、これは保育士の園児への対応や保育内容によるものではなく、欠員を含む保育士体制の問題に関連していることが、その後の設問の結果から推測できる。